

羅針盤



第**21**号

令和7年10月27日(月)

◆ スローガンは「笑顔満祭～僕らのアオハル～」

いよいよ明日は、いずれの学年も、合唱コンクールの本番を迎えることとなります。また、今週末の31日(金)には、文化発表会が実施されます。各教科や各部活動、あるいは、各学年ごとに展示発表や舞台発表に向けて、最後の仕上げに全力で頑張っていることかと思います。今年のスローガンは、「笑顔満祭～僕らのアオハル～」です。発表会当日には、校舎の多くの場所で、また、舞台発表の場となる体育館でも、生徒の皆さんのはち切れんばかりの笑顔がたくさん見られることを期待しています。ところで、生徒の皆さんには、2004年に行われたアテネオリンピックのハンマー投げにおいて、金メダルを獲得した室伏広治という選手を知っているでしょうか。陸上の投擲(とうてき)競技での金メダル獲得は、アジア人では初の快挙となる出来事でした。また、世界陸上とオリンピックの両大会で金メダルを獲得したことは、日本人では初めてのことでした。室伏選手がオリンピックでの表彰台に立ち、他の選手たちが金メダルの輝きやその重みに注目しているとき、彼だけはメダルの裏に書かれていた文字がとても気になったそうです。彼は、近くにいたギリシア人に「これは何て書いてあるのですか。」と聞いてみましたが、分からぬと言われ、オリンピック会場にいた他のギリシア人にも聞いてみましたが、こんな文字は今は使ってないので分からぬと言われてしまいました。普通の選手ならきっとそれで諦めてしまっていることでしょう。ところが、室伏選手は自分が興味や好奇心を持った分野は徹底的に調べないと気が済まない性格であったことから、また、一つのことに常に一生懸命に取り組むという姿勢を持ち続けていたため、決して諦めることはありませんでした。だからこそ、彼は日本選手権では全人未踏の20連覇といった記録や、その他にもたくさんの輝かしい実績を積み上げながら、世界で戦うことのできる一流選手として活躍してくことができたのだと思います。彼は、その後、ついにはオリンピック会場から飛び出して、アテネの町を毎日歩き続け、やっとの思いで古代ギリシャ文字を読むことができる人を見つけ出します。そこに書かれていたのは、「真実の母は、あなたが努力した時にこそ、微笑みかける」という意味の古代ギリシャ語だったそうです。つまり、「本当に大切なことというのは、優勝や成功するといったことではなく、目標や目的に向かってどれだけ努力したかということであり、そのために惜しまずに努力した時間は決して努力した人を裏切ることはない。繰り返し努力をし続けた時間がこそが栄光である。」と知ったそうです。昔から言われ続けている言葉に、「一生懸命だと知恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。いい加減だと言い訳が出る。」といったものがあります。しんどいことばかりに目がいってしまい、愚痴や言い訳を繰り返しているようなことはありませんか。必ずや成功するという意識を持って、一生懸命に頑張っていれば自然と知恵が出てくるものです。愚痴ばかりを繰り返して、いい加減な気持ちで取り組んでいれば、残念ながら言い訳しか出てこないでしょう。こうすればもっと良くなるという気持ちを持ち続け、みんなで懸命に力を合わせ、高めあい、より良い達成感を誰もが持てるように、全員の力で、素晴らしい合唱コンクールと文化発表会をつくりあげていってもらいたいと思います。真実の母が、微笑みかけてくれるはずですから。



うなことはありませんか。必ずや成功するという意識を持って、一生懸命に頑張っていれば自然と知恵が出てくるものです。愚痴ばかりを繰り返して、いい加減な気持ちで取り組んでいれば、残念ながら言い訳しか出てこないでしょう。こうすればもっと良くなるという気持ちを持ち続け、みんなで懸命に力を合わせ、高めあい、より良い達成感を誰もが持てるように、全員の力で、素晴らしい合唱コンクールと文化発表会をつくりあげていってもらいたいと思います。真実の母が、微笑みかけてくれるはずですから。